

夢育てコインケース ニコニコインを使ったお金の使い方学習法

Kids Festa 2023

- NPO法人ユメソダテ
- 株式会社 夢育て

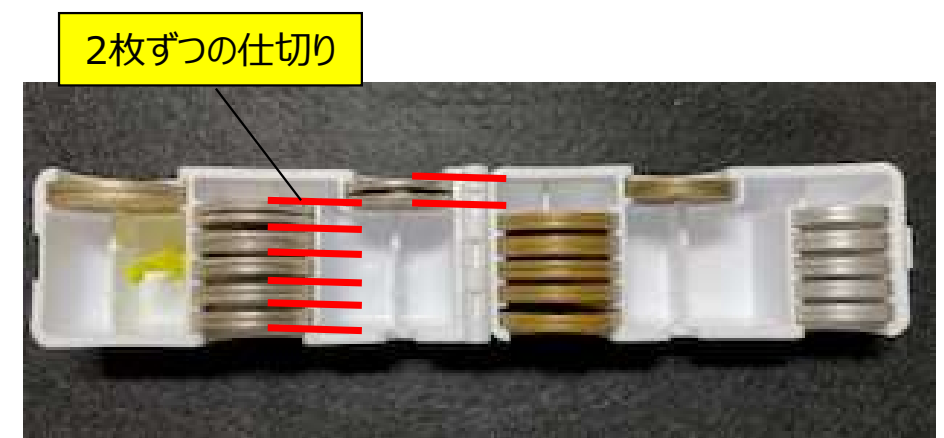
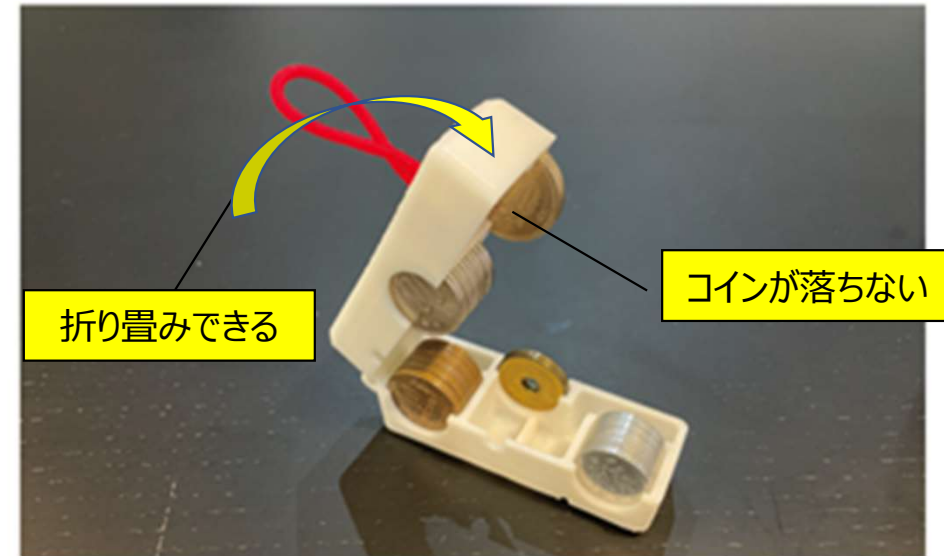
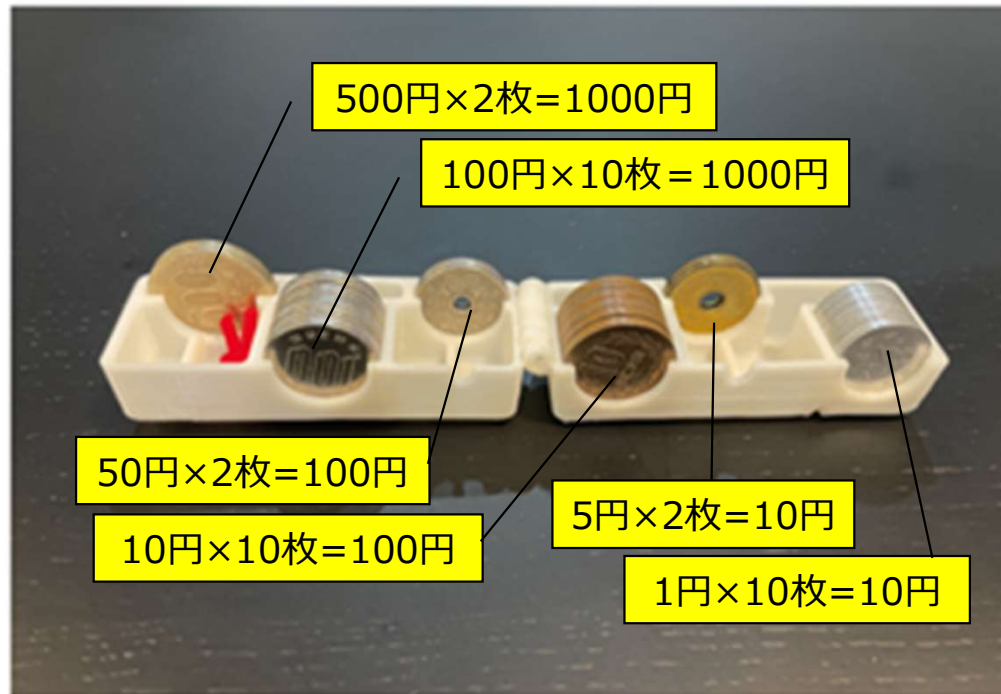




1. ニコニコインの特徴
2. ニコニコインの利用対象
3. ボード学習法（初級編）
4. 買い物の実践
5. ボード学習法（中級編）
6. ボード学習法（上級編）
7. お金を使うことの意味を理解する

1. ニココインの特徴

- a. コンパクトでポケットに入るサイズ
- b. 折り畳み式で逆さにしてもコインが落ちにくい
- c. すべての金種（硬貨）が入る
- d. 各金種が繰り上がりの枚数となっている
- e. コインの枚数が数えやすい（2枚ずつ仕切られている）



2. ニココインの利用対象



- a. 視覚障がい者
- b. 半身麻痺障がい
→片手で使用できる
- c. 高齢者・軽度認知症
→お金の計算が難しくなってきた方
- d. 幼児
→お金を使い始めるときの知育玩具として使用

e. 知的障がい者

- ◆ お金の概念があるにもかかわらず（指示した金額を出すことができる）、実際に貨幣を使わなかったり紙幣のみで買い物して釣銭（小銭）ばかり溜まる人。
※お金を出すのに戸惑ってしまうためプレッシャーを感じている
※一見お金の概念を理解しているようで実際理解できていないケースもあるので確認が必要。
理解できていない場合は次項のボードトレーニングを実施。
→財布や小銭入れに比べ、硬貨の金種、枚数がわかりやすく指定の金額を取り出しやすい
- ◆ 電子マネー等でしか買い物ができない人。
- ◆ お金の概念は無いが、硬貨の種類をぼんやり程度理解し、数字も2桁の数字が読める
→次項のボードトレーニングでの概念習得+コインケース利用により可能

3. ボード学習法 (対象者)



対象者 (知的障がい) のレベル

a. 数字の概念

- ① 1～20までの数字が数えられる。(具体的には1円硬貨を20枚数えられる)
※差しあたり1～9までの数字が数えられるだけでもよい。
(繰上りを理解する際10以上の概念が必要)
- ② できれば3桁の数字が読める。(数えられなくてもボード学習を繰り返すことで理解も可能)

b. お金の概念

硬貨の金種 (1円、5円、10円、50円、100円、500円) をぼんやりと理解している。



3. ボード学習法（概要と準備）



a. 学習法の内容

ボード学習の対象者レベルにあつて、お金を使った買い物ができない場合でも、ボード学習法を実施することで**数字（金額）を見てお金（硬貨）を支払うことができるようになる。**

さらに桁の繰上りやお釣りの学習をすることで、たし算や引き算の理解にもつながる。

- ① 各金種（硬貨）の枚数をそれぞれの数字にする
- ② 1の位から100の位までの各数字を3桁の金額として読み換える
- ③ 3桁の数字（金額）をお金（硬貨）の枚数に置き換える

b. ボード学習の進め方(注意点)

- ① ボード学習の初級編をパターンとして繰り返す。お金の概念を理解していなくても、**繰り返すことで徐々に金額の量を理解することができる**
- ② ボード学習を繰り返す中で、できない事や行き詰ることがあれば、できない原因を見極めてその点について別途トレーニングを実施する
＜行き詰まりと対策の例＞
 - ・数字が読めない ➡ 1～20までの数字カードを作り読む練習をする
 - ・硬貨の金種がわからない ➡ 実際の硬貨の数字の刻印を見せて金額として読む練習をする（10円の場合、硬貨の“10”の刻印を見せながら「10えん」と読ませる）



👉ワンポイント

金額の刻印をみせても硬貨の金種がわからない場合、硬貨の特徴を考えさせると理解が進む場合があります。
10円玉は茶色だから見分けるのはかんたん。5円玉は穴がある。1円玉と100円玉はどちらも同じ銀色だけど、100円玉のほうが1円玉より重いので「100円玉はずっしりくるでしょ？」という感じです。

3. ボード学習法 (概要と準備)

c. ボード学習の準備

- ① 100均などで売っているホワイトボード（幅35cm×縦25cm以上のサイズが良い）を購入し下図のようなボードを作成する。

※繰り返し書いたり消したりするので基本の線や文字は油性マジックで書くとよい。

- ② ニコニコイン（コインケース）の硬貨を充てんする

- ・500円硬貨×2枚
- ・100円硬貨×10枚
- ・50円硬貨×2枚
- ・10円硬貨×10枚
- ・5円硬貨×2枚
- ・1円硬貨×10枚



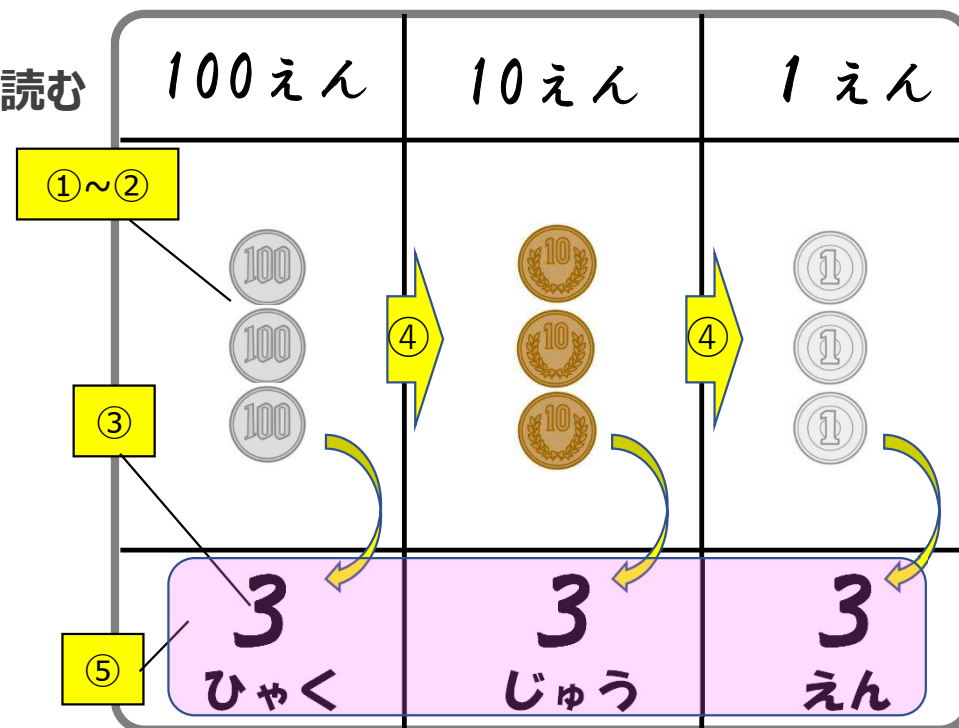
学習ボード		
100 せん	10 せん	1 せん
		硬貨配置エリア
		金額記入エリア
ひゃく	じゅう	せん

3. ボード学習法（初級編：お金→金額への読み換え）

d. 硬貨を置いて金額として読む

硬貨を置く→金種ごとの枚数(数字)を書く→金額を読む

- ① 硬貨を各金種の桁に置く（支援者）
 - ・最初は1円、10円、100円硬貨のみ使用
 - ・小さな数字(2~5)から始める（最初は“1”の数字は使わない）
 - ・例) 333円→555円→234円→345円→423円
- ② 百の位の置いた硬貨の枚数を数える（当事者）
 - ・硬貨を指で押さえながら声に出して数える
 - ・「1枚、2枚、3枚」
- ③ 百の位の硬貨の枚数が3枚であれば百の位の金額の欄に“3”と書かせる（当事者）
 - ※②③については最初のうちは支援者が指で差すとか声を出したりして誘導する
- ④ 同様に十と一の位も②③をおこなう
- ⑤ 金額の欄の3桁の数字を読み上げる（当事者）
 - 読み上げる際に金額の欄の“数字”と“単位”を指差しながら333円→「さん、ひゃく、さん、じゅう、さん、えん」と読む
- ⑥ ①~⑤が確実にできるようになるまで繰り返しできるようになれば⑦に進む



ワンポイント







桁ごとに硬貨の枚数を数字に変換することを**繰り返し返す**ことで徐々にお金を金額として読むことを理解します。
焦らずゲーム感覚で**楽しみながらやりましょう！**

3. ボード学習法（初級編：“1”の読み方）

- ⑦ 硬貨を111円置く（支援者）
※「ひゃくじゅういちえん」と読むのが難しいため
- ⑧ ②～⑤を実施する（当事者）
※百の位は「いちひゃく」ではなく単位だけ「ひゃく」と読むことを教える（十の位は「いちじゅう」→「じゅう」、一の位は「いちえん」）



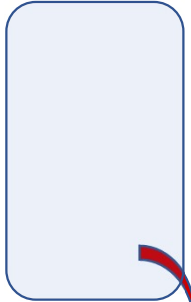
👉ワンポイント

何度やっても「ひゃく、じゅう、いちえん」と読むことができず「いちひゃく、いちじゅう、いちえん」と読んでしまう場合は学習を進めることを優先しそのまま次の学習に進む。今後の学習の中で正確な読みを繰り返し、理解させる。

100えん	10えん	1えん
		
		
1 ひゃく	1 じゅう	1 えん

3. ボード学習法（初級編：“0”の概念）

- ⑩ 硬貨を230円置く（支援者）
- ⑪ 百、十の位について①～③をおこない一の位で硬貨の欄に硬貨がないことを指をさして認識させる
支援者が「（硬貨の欄に）お金がないときは（金額の欄を指さしながら→）“0”と書きます」といって当事者に金額の欄へ“0”を書かせる
- ⑫ ⑤の要領で金額の欄を指さしながら「に、ひゃく、さん、じゅう、（一の位は“ゼロ”読まない読まずに飛ばすことを教える）えん」と読ませる
- ⑬ 続いて301円、400円、25円といった金額で⑩～⑫を実施する
- ⑭ ⑩～⑫ができるようになるまで繰り返し、できるようになれば⑮に進む




100 えん	10 えん	1 えん
		
2 ひゃく	3 じゅう	0 えん

3. ボード学習法（初級編：金額の複雑化）

- ⑮ ①～⑭までを硬貨の枚数を0～9までの枚数にして実施する →硬貨を970円置く
- ⑯ ⑮を繰り返す。
例) 307円→851円→910円→800円→20円
躓きがある場合はできるところまでを繰り返しながらつまずきの部分を超えてからさらに進む
- ⑰ ⑯まで、できるようになれば次項（金額→お金を出す）に進む

👉ワンポイント

枚数が増えると数字を間違える（硬貨の枚数を数え間違える）ことが多くなるので、硬貨の枚数を数える際に**必ず指で硬貨を指しながら数えるよう促す**

100円	10円	1円
		
<p>9 ひゃく</p>	<p>7 じゅう</p>	<p>0 えん</p>

3. ボード学習法（初級編：金額→硬貨を置く）

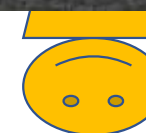
e. 金額を見て硬貨を置く

金額（数字）を見る→硬貨を置く（支払う）

- ① 硬貨を充てんしたコインケースを学習ボードと当事者の間に置く（方向に注意）
- ② 金額の欄に数字“123”円を書く（支援者）
- ③ 金額の欄を指さしながら、当事者に「ひゃく、にじゅう、さんえん」と声を出して読ませる

100えん	10えん	1えん
1	2	3
ひゃく	じゅう	えん

- ・コインケースを学習ボードと当事者の間に置く
- ・コインケースを学習ボードの桁の向きを合わせ置く（左が500円硬貨）

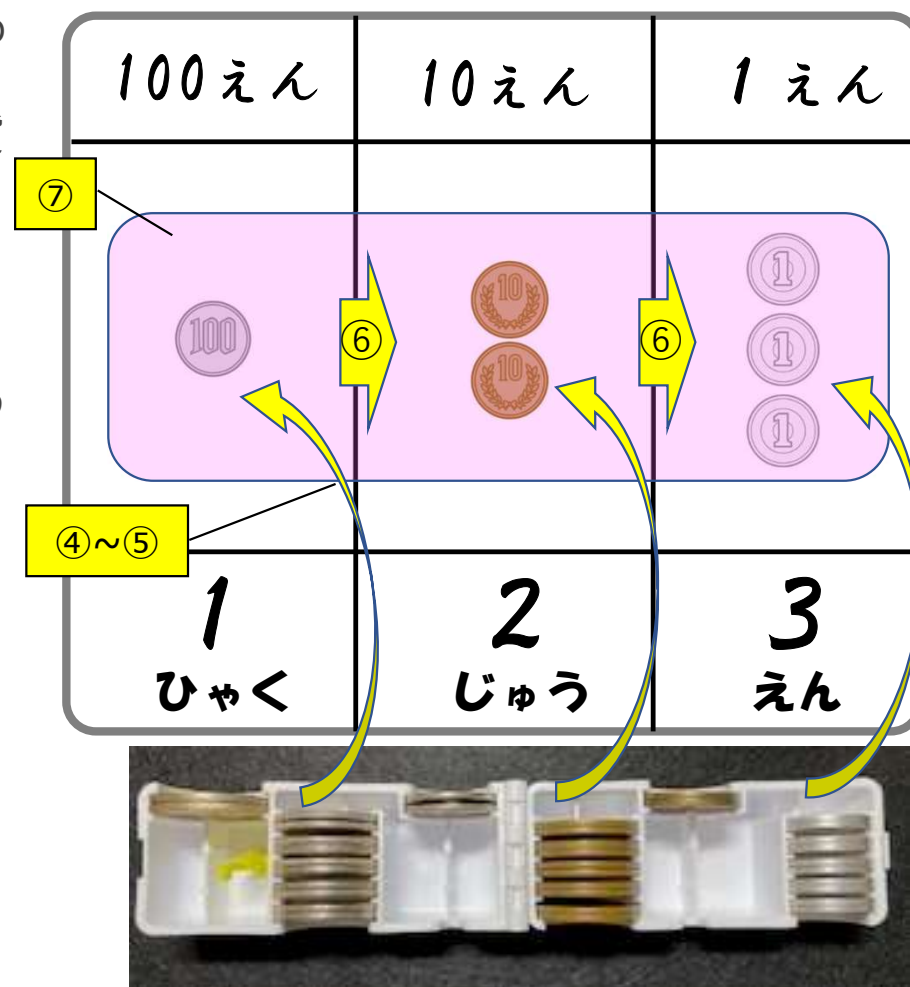


3. ボード学習法（初級編：金額→お金を出す）

- ④ 百円の硬貨の欄にコインケースからお金（硬貨）を取って置くよう指示する（支援者）
※戸惑っているようであれば、コインケースの100円硬貨を指さし誘導する
- ⑤ 百円硬貨を1枚置いたときに「1枚」と声を出して置かせる（当事者）
- ⑥ 20円、3円も同様に①～⑤を繰り返す
- ⑦ 全ての硬貨が出せたら硬貨を指さしながら「ひゃくにじゅうさんえん」と声を出して読ませる
※硬貨を見て金額を読むことで硬貨も、金額の数字も同じ読み方をすることを理解させる
- ⑧ ⑥までできれば、461円、300円、795円といった金額でチャレンジしましょう

ワンポイント

e.の学習法ができるようになっても、日を改めてコインの学習をする際は、必ずd.の学習法から始めd. e.をセットで学習する



4. 買い物の実践（自販機での購入）

a. 自販機での購入

- ① まずは自販機で好きな飲み物などを買ってみましょう
※周囲の人を気にせず落ち着いて買い物ができます
- ② 自販機の前で好きな飲み物を選ばせてください
- ③ 選んだ商品の金額を指さして声に出して読ませてください。例えば「ひゃくごじゅうえん」
- ④ ニココインを出して、ニココインから150円を取り出させ自販機に投入させます
※うまく硬貨を取り出せない時は「百円は何枚？」「十円は何枚？」と誘導してあげてもよい
※それでもうまく硬貨を出せない場合は、ボード学習用のボードを持参しておいてボードに飲み物の金額（150円）を書いて硬貨を置かせてもよい。最終的には買い物場面でボードを使わにところまで頑張りましょう
- ⑤ 自販機に硬貨を投入させる際、デジタルの金額表示見せコインを入れるごとに「10円、20円、30円・・・」と表示された金額を一緒に読み上げながら投入させてください



4. 買い物の実践（買い物の模擬練習）



b. 買い物の模擬練習

実際に店舗で買い物する前に落ち着いて行動できるよう自宅で模擬練習をしましょう

- ① 模擬練習用の商品を準備します
※できるだけ本人が好きなおもの興味があるものを現物（パッケージだけでも可）で準備しましょう
※現物が準備できない場合は紙で作った模造品でも可
- ② 買い物で使う、ニコニコインと買い物袋（レジ袋でもエコバックでも可）を当事者に持たせます
- ③ 支援者は店員役なので電卓を持ってください
- ④ 当事者に商店での買い物の練習であることを伝えます
- ⑤ 当事者に商品を持たせ店員である支援者に渡させる
※テーブルの上で受け渡しするとよい。コンビニであればレジカウンターに該当する
- ⑥ 支援者（店員）は電卓に金額を入力し、電卓の金額を読み上げながら当事者に見せる
- ⑦ 当事者はニコニコインをテーブルの上に置き、その金額をみて硬貨を取り出し店員に渡す
※コイントレーを使うと俄然やる気を出す当事者がいます
- ⑧ 支援者（店員）は、受け取った金額を読み上げ
過不足あればその金額を請求する
- ⑨ 全て払い終われば、支援者（店員）は「有難うございました」という
- ⑩ 当事者は商品とニコニコインを取り袋に入れて店を出る



コイントレー
(百円ショップで販売しています)

4. 買い物の実践（実際の買い物）

c. 実際の店舗での買い物

支援者は当事者が落ち着いて買い物できるよう、優しく次の手順を示しましょう

- ① 最初は人の少ない商店やコンビニが良いでしょう（レジで人がたくさん並んでいる場所は避けましょう）
- ② 商品を持ってレジに並びましょう（できるだけ本人が好きなおもの興味がある商品にしましょう）
※千円を超えないこと、単品が良いでしょう
- ③ 当事者に商品をレジカウンターに置かせましょう
- ④ 店員が金額を読み上げたら、支援者はレジの金額表示の部分を指で差し当事者に見せる
- ⑤ 当事者にニココインをテーブルの上に置かせ、提示金額をみて硬貨を取り出す
- ⑥ 支援者は当事者に、取り出した硬貨を店員に渡させるか自動支払機の金額投入口に投入するよう指示する
- ⑦ 全て払い終われば当事者に商品とニココインを取り袋に入れさせ店を出る
- ⑧ 買い物学習を繰り返しながら、徐々に支援者のサポートを減らしていき最終的にはサポート無しで買い物できるようにする

コンビニで買い物



パンの移動販売






5. ボード学習法 (中級編 : 5円・50円・500円を使う支払い)

a. 硬貨を置いて金額として読む

5円、50円、500円を含めた硬貨を置く→金種ごとの枚数(数字)を書く→金額として読む

- ① 支援者が当事者に500円硬貨、50円硬貨、5円硬貨を各1枚ずつ見せながら「ごひゃくえん」「ごじゅうえん」「ごえん」と硬貨の名前を説明して硬貨欄に置き555円並べる
- ② 当事者に500円硬貨の上を指で押さえさせながら声に出して「1枚、2枚、3枚、4枚、5枚」と数えさせる
- ③ 百の位の金額の欄に“5”と書かせる
- ④ 同様に十と一の位でも②③をおこなう
- ⑤ 金額の欄の3桁の数字を読み上げさせる(当事者)
※読み上げる際に金額の欄の“数字”と“単位”を指さしながら読む 555円→「ご、ひゃく、ご、じゅう、ご、えん」
- ⑥ ①～⑤が確実にできるようになるまで繰り返し、できるようになれば⑦に進む

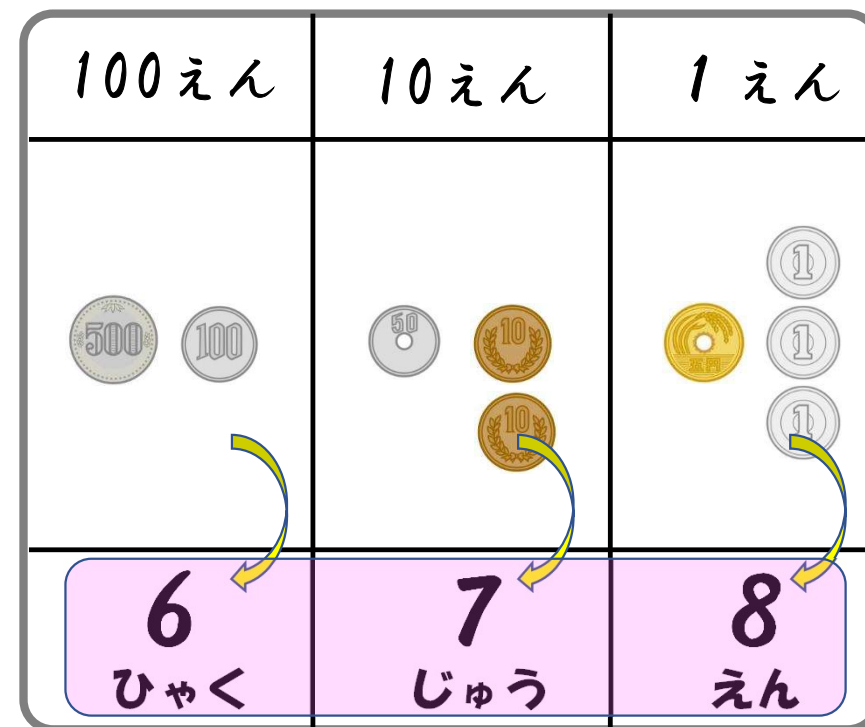
100えん	10えん	1えん
		
5 ひゃく	5 じゅう	5 えん

ワンポイント

500円硬貨は1枚しかないが、1枚の硬貨の上で1～5まで数えることで100円硬貨5枚と同じ意味のものであることを認識させる




5. ボード学習法（中級編：5円・50円・500円を使う支払い）

- ⑦ 次に678円を500円硬貨、50円硬貨、5円硬貨を各1枚ずつ含め硬貨欄に並べる
- ⑧ 当事者に百の位に置いた500円硬貨の上を指で押さえさせながら声に出して「1枚、2枚、3枚、4枚、5枚」と数えさせそのまま100円硬貨の上を指で押さえ「6枚」と数えさせる
- ⑨ 百の位の金額の欄に“6”と書かせる
- ⑩ 同様に十と一の位も⑧⑨をおこなう
- ⑪ 金額の欄の3桁の数字を読み上げさせる（当事者）
※読み上げる際に金額の欄の“数字”と“単位”を指さしながら読む 678円→「ろっ、ぴゃく、なな、じゅう、はち、えん」
- ⑫ 次に957円、507円、379円といった金額で5以上の数字には500円硬貨、50円硬貨、5円硬貨を使って⑦～⑪の手順で繰り返し実施する
- ⑬ ⑫を繰り返し、できるようになれば⑭に進む



5. ボード学習法 (中級編 : 5円・50円・500円を使う支払い)

- ⑭ ⑦～⑫の手順で5以上の数字において500円、50円、5円硬貨を混ぜたり混ぜなかったりする課題を設定する
例 : 678円 → 【500円硬貨×1枚 + 100円硬貨×1枚】
【10円硬貨×7枚】
【5円硬貨×1枚 + 1円硬貨×3枚】
- ⑮ ⑭を繰り返し、500円硬貨×1枚 = 100円硬貨×5枚の概念が理解できれば完了

100 円	10 円	1 円
		
6 ひゃく	7 じゅう	8 えん

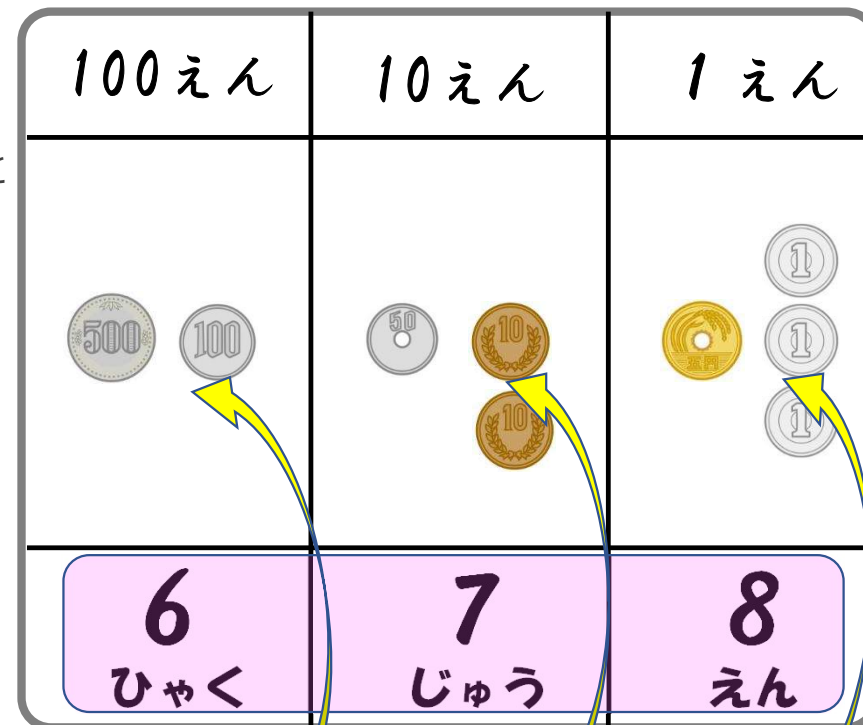
5. ボード学習法 (中級編 : 5円・50円・500円を使う支払い)

b. 金額を見て硬貨を置く

- ① コインケースの100円、10円、1円硬貨を各10枚→5枚に減らす
- ② 金額の欄に数字“678”円を書く (支援者)
- ③ 金額の欄を指さしながら、当事者に「ろっぴゃくななじゅうはちえん」と声を出して読ませる
- ④ 百円の硬貨の欄にコインケースからお金 (硬貨) を取って置くよう指示する (支援者)
- ⑤ 100円硬貨が6枚無いことで戸惑っているようであれば、500円硬貨1枚 + 100円硬貨1枚を硬貨の欄に置かせ500円硬貨を指さして「1枚、2枚、3枚、4枚、5枚」と声を出させて数えさせ、続けて100円硬貨を指で指して「6枚」と数えさせる
- ⑥ 70円、8円も同様に③~⑤を繰り返す
- ⑦ 全ての硬貨が出せたら硬貨を指さしながら「ろっぴゃくななじゅうはちえん」と声を出して読ませる
- ⑧ ⑦までできれば、469円、700円、795円といった金額で実施

👉ワンポイント

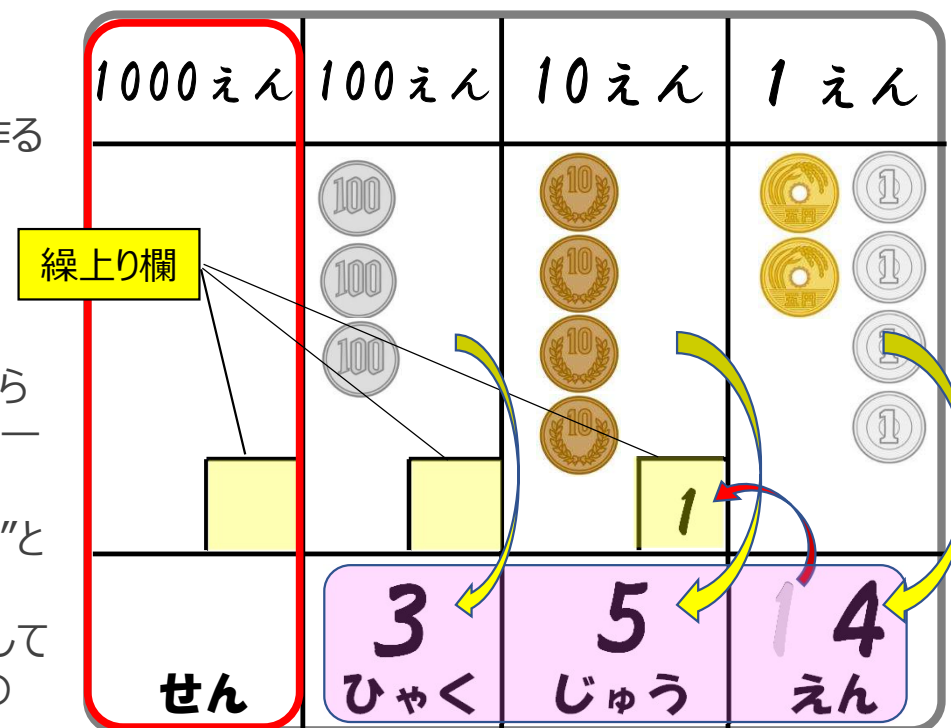
- ・初級編よりも5円硬貨の概念は難しく繰り返し練習すること。
特に5のつく硬貨を指際して「1枚、2枚、3枚、4枚、5枚」と数えることを省略すると効果が無くなってしまいますので必ず実施すること。
- ・50円硬貨を使った自販機での実践練習もお試ください。



6. ボード学習法（上級編：繰上り）

a. 一の位で繰上りを学習

- ① 千の位の枠を作る
- ② 学習ボードの千、百、十の位に図のような繰上りの欄を作る
- ③ 支援者が354円を下記の内容で硬貨の欄に置く
【100円硬貨×3枚】
【10円硬貨×4枚】
【5円硬貨×2枚 + 1円硬貨×4枚】
- ④ 当事者に一の位に置いた硬貨の上を指で押さえさせながら声を出して「1枚、2枚、…14枚」と数えさせ金額欄に一旦「14」と書かせる
- ⑤ 一の位の「14」の「1」を消させて十の位の繰上り欄に「1」と書かせる
- ⑥ 十の位に置いた硬貨の上を指で押さえさせながら声を出して「1枚、2枚、3枚、4枚」と数えさせ、そのまま繰上り欄の「1」を指さし「5枚」と数えさせ金額欄に「5」と書かせる
- ⑦ 百の位も硬貨を数えさせ金額欄に「3」と書かせる
- ⑧ 金額の欄の3桁の数字「354円」を読み上げさせる
- ⑨ いろいろな組み合わせで各桁の繰り上げを練習する



ワンポイント

繰り上がりの学習では、硬貨が不足しているときの支払いや、たし算の勉強にもつながります。

7. お金を使うことの意味を理解する



a. お金を使う動機づくり

あなたが支援する当事者は自ら買い物をしたいと思っ
ていますか？

ボード学習、買い物学習をするうえで
お金を使うことの動機づけは大切です。

今回の学習をするうえで当事者が「**買いたい物**」「**買わなければならない物**」
を見つけ**それらを買うことを目標にしてください。**

＜買いたい物＞

好きな食べ物、飲み物、趣味など食べ物についてはお菓子だけでなく食事の時に好んで食べるふりかけや海苔といったものでもよい。

好きな飲食店などで食事してもよい。

※最初は前払いの店で練習し、習熟してから後払いの店（自分が十分なお金を持っているか、店に入る前に判断する必要が生じる）に移行する。

＜買わなければならない物＞

日常生活において、こだわりがあるもの。

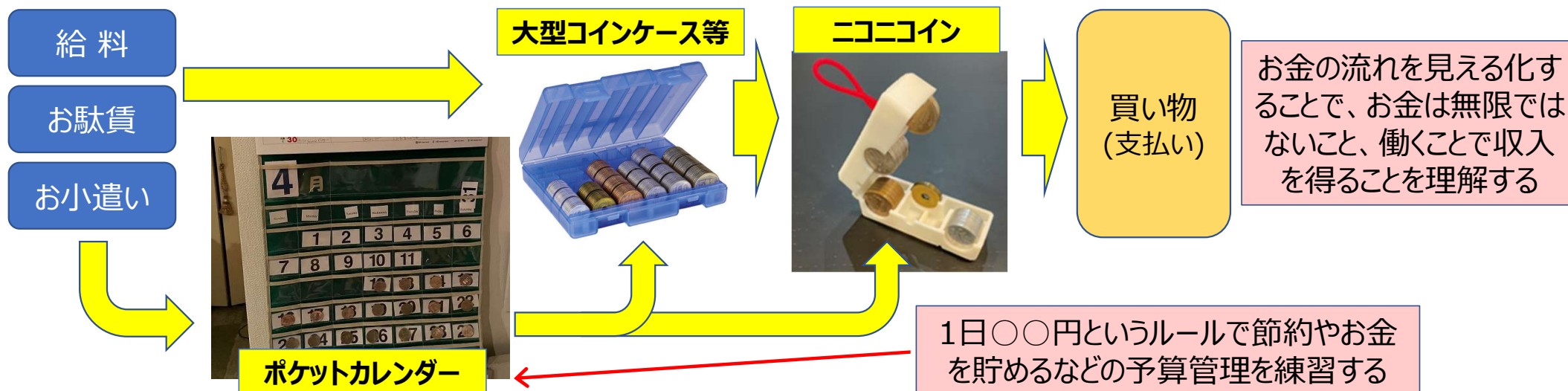
※私の子供は食器洗いの洗剤などボトルの中身が少なくなると充填することにこだわるのでこれらの買い物をさせています。

＜NGな例＞

- ・支援者（親）が買い与える
- ・電子マネーで買い物させる（魔法のカード、お金を支払う現実感が欠如します）

7. お金を使うことの意味を理解する

b. お金の源泉と流れを理解させましょう（お金の流れの見える化）



c. 自身でお金を使うことで人生が豊かになります

趣味・楽しみがある（夢）→「〇〇を買いたい」「〇〇に出かけたい」（物欲）→お金が必要→働いて収入を得る（就労意欲）→買い物（夢の実現・達成感）→また楽しみたい→繰り返す

お金を使うことですべての夢が実現できるわけではありません。
しかし小さな物欲を達成することが大きな夢の実現につながります。

お金を使う学習と夢と一緒に育て
お金を使うことの楽しさと人生の豊かさを実感しましょう